



うきうき 子どもックル

季刊 第31号



2015年6月発行

【新任医師紹介】

医師名	診療科	得意分野	趣味	ひとこと
 國崎 純	小児科	小児科一般	音楽鑑賞	宜しくお願いいたします
 野上 和剛	小児科	小児科一般 アレルギー疾患	動物と触れ合うこと	至らないことだらけだと思いますが、 宜しくお願いいたします
 三木 芳織	小児科	小児科一般	カメラ 写真を撮りにでかけること 美味しいものを食べる	分からないことだらけで、皆様にご迷惑を多々おかけしますが、 少しでも成長できるように一生懸命 がんばりますので、よろしくお願いします
 浜田 弘巳	小児外科	小児外科全般	サッカー観戦 マラソン	北海道の小児外科の発展に 貢献できるように頑張ります
 山本 卓宜	泌尿器科	泌尿器科全般	サッカー 写真	みなさまのお役に立てるよう がんばります。10月までの勤務ですが、 宜しくお願いします
 澤下 泰明	麻酔科	麻酔科一般	食べ歩き	精一杯がんばります 宜しくお願いいたします
 宮下 龍	麻酔科	麻酔科一般	ドライブ 温泉めぐり	安全で質の良い麻酔を心がけています 分からないことがありましたらご遠慮なく お尋ねください
 高橋 希	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	旅をする お買い物 ダイビング	至らぬ点ばかりですが、 よろしくお願いします
 早川 光	リハビリ整形外科	整形外科一般 外傷	ドライブ スポーツ観戦	まだまだ若輩者ではありますが、 精一杯がんばらせていただきます よろしくお願いします



北海道札幌稲穂高等支援学校から、
花の贈呈をしていただきました！
ありがとうございます♪

【續晶子医師:副センター長(療育部門)就任のあいさつ】



2015年4月より地域連携室長に加え療育部門 副センター長を拝命いたしました續晶子(つづきあきこ)と申します。診療科ではリハ小児科に配属しております。リハビリテーション(リハ)小児の役割は、運動の遅れや躓きがある、手先がうまく使えない。言葉のやり取りが難しい、食べることが難しい、日常生活リズムが整わない、動きが多く集中できない、友達と遊べない、いろいろと過敏でご機嫌が安定しない、など、お子様の生きづらさを少しでも軽減するための「療育」の入り口です。

近年、新生児医療が充実し新生児死亡率が低下した一方、歩く、走るといった機能が獲得されており、運動の課題が一見ないように見えるお子さんもおられます。早期に運動の異常性を診断する事は、なかなか難しくなっております。脳性まひなど、脳からの指令により運動に問題を呈するお子様は、障害の現れ方が複雑で、リハビリに関しても行う時期や頻度、方法が完全に確立していません。それだけに発達する子どもの能力を見極める必要があります。子どもの脳は可塑性という、大人には認められる事が少ない快復力のすばらしさを持っています。きめ細かいリハの継続が必要になることもあります。

子どものリハ、特に脳性まひ関連に精通した専門の医師や療法士は絶滅危惧種と言われており、看護、保育を含め肢体不自由児医療を担う職人技を有しているスタッフも少なくなっています。でも、コドモックルの療育センターは昭和27年から脳性まひ児のリハを行ってきており、長年培ってきた技術が引き継がれております。北海道のリハの歴史は、旧札幌療育センターの歴史に重なっています。

私は幼いときから父の仕事の関係で、脳性まひのご家族の方々と接した縁もあり、東京都、札幌市、北海道(旧札幌療育センター)で療育の仕事を経験させていただきました。また、現在の脳性まひ療育の基礎を作ったといわれる多くの偉大な先生方にお目にかかる得難い体験もさせていただきました。マクドナルドハウスから見える桜は、旧母子棟の庭にありましたが、今でも毎春には桜花を咲かせてくれています。母子棟の桜は、保護者のがんばりの歴史の象徴だと思っています。平成19年の秋晴れの日、旧札幌療育センターから入所児童を車椅子に乗せて、新しいセンターへの道を一本渡ってのどかに引越してからもう7年も経過しました。今までも、そしてこれからも、子ども自身の持つ力強さや子供を取り巻くご家族の健康的な関わりにより、予想を超えたよい変化が起こるすばらしさを実感する事と思います。たくさんの人と繋がる「療育」という仕事を一生のライフワークにできた事を感謝しております。味方をたくさん作り一緒に子育てをしていきましょう。

【水上伸子 課長(作業療法士):リハビリテーション課長就任のあいさつ】



4月からリハ長として着任しました水上です。私は、作業療法士の資格を取って、最初の赴任地が札幌療育センターでした。この度、新しく大きくなった「コドモックル」で働くことのできる機会を得ることが出来、非常にうれしく思うと同時に、大変責任も感じています。それは、17年間離れてみて感じたことですが、コドモックルのリハに対する、親御さんや地域関係職員の方々の期待と信頼が、とても大きなものだということです。

私たちは、その期待や信頼を裏切らないように、日々研鑽を重ねていかなければなりません。一人一人の子ども達の成長を促すことだけではなく、北海道の子ども達が、どこの地域にいても継続したリハを受けることが出来、安心して療育が受けられる環境が整うように、地域支援への協力など、29名のリハスタッフと共に頑張っていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

〒006-0041 札幌市手稲区金山1条1丁目240番6

北海道立子ども総合医療・療育センター (コドモックル) Tel. 011-691-5696

ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/hkr/>